

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2015年11月 NO.188

[もくじ]

- 2～3 表現者として…浜田あゆみ
- 4～5 ウツボによる地域活性化への取り組み…米澤洋弥
- 6～7 撮影する生物からみえるもの…中西安男
- 8～9 時代の転換期にある現在…福田善乙
- 10～11 向原先生を偲んで…柳井卓、テノール歌手Toshi
- 12～13 高知市文化振興事業団9月～10月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

表紙デザイン：「芸術の秋」池内日菜

公益財団法人高知市文化振興事業団

表現者として

少女は凜としていた。背丈は一五〇センチ位だろうか。小柄で、細身だがほどよく筋肉のついた健康的な体つきをしていた。真っ黒な髪を肩までなびかせ、つぶらな瞳で私をじっと見つめる彼女は、南米ペルー出身というより、ペルーやカンボジアのような東南アジアのイメージに近かった。白い歯を見せて照れ笑いするのがとてもチャーミングだった。まだ十七歳で、名前は「メリーナ」といった。

出会ったきっかけは、国際交流NGO「ピースポート」。昨年のはじめ、東京で役者として活動していた私は、カナダに留学していた大学時代に知り合った「バンク

パー九条の会」のメンバーから、被爆の苦しみと放射能の恐ろしさを海外に語り伝える「ヒバクシャ地球一周証言の航海」の参加者募集の話聞いた。それまで「地球一周なんて夢のまた夢」だった私

にとつて、その知らせは、神様がくれたチャンスに思えた。被爆した人々はすでにかなり高齢で、当時の体験を伝えるために残された時間は限られている。だからこそ、演劇の持つ「伝える力」が生きると思った。

三十歳を迎える前に何か出来ないかと考えていたこともあって、喜び勇んでこの取り組みに応募した。そして「留学経験もあるユニークな経歴の持ち主」という理由

られた。日本で、これを演じられる十七歳の女優なんているのだろうか。もしいたとしても、「若い少女にさせることではない」「子供の教育に良くない」と否定されてしまっただろう。

メリーナはこうも言った。「私は、少し前の世代のことすら経験していない。でも、『経験していないから知らない』という態度はよくない。私たちが過去を知ろうとせず、歴史が忘れられていくとしたら、それは自分の体の一部を失っていくことと同じ」

メリーナにとつて歴史とは「生まれてきた証」であり、演じて継承するという作業こそが「生きる意味」なのだ、と思った。被爆体験を伝える役目を担ってピースポートに参加した私には、メリーナとの出会いが「必然」でとても幸福なことに感じられたのだった。

表現者には強い「想い」がなくてはならない。メリーナの目がきらきらと輝き、演じる姿に力強さを感じるのには、きつと「使命感」に溢れているからだ。学校にも満足に通えないほど貧しい子供たち

浜田 あゆみ

で幸運にも合格し、二〇一四年三月から六月、世界中を旅して回ることになった。二十八歳の春だった。

メリーナは、ベネズエラで乗船した。彼女の船での仕事は、乗船客とのイベント作りと、故郷のビジャ・エルサルバドル市の紹介だった。同市は、首都・リマから車で一時間ほどの砂漠の中にある巨大なスラム街で、現在約四十万人が暮らす。歴史は浅く、一九七一年に、数百人の人々が国有の空き地に筵で覆っただけの小屋を建てて住み始めたのが始まりという。

住民が相互に協力しながら自主的に街を運営する「自治スラム」

が、体と心の成長を求めて劇団で学ぶ「尊さ」を思うと、愛しきで胸がいっぱいになる。

昨年十一月、東京で開催された「アジア舞台芸術祭」に参加したタイの演出家、ティラワット・ムンウィライ氏は「アーティストは一般市民。表現や言論の自由を訴えるために存在する」と話していた。世界を見渡せば、未だに「表現の自由」が無く、芸術に対して厳しい規制が存在する国や地域は多いのが実状だ。

私がこの寄稿文を執筆している九月十七日、政府与党は、集団的自衛権行使容認を含む安全保障関連法案を参院の特別委員会強行可決させた。国会の周りで声をからしながら廃案を求める国民の痛切な叫びは、ついに届かなかった。

芸術はそんな時、何の力にもなれないのかもしれない。でもこんな時代だからこそ、皮肉にも面白い芸術が生まれることもある。誰だって戦争を望みはしないし、法案が成立したからといって、今すぐ戦争になったり、第二次大戦時

で、その取り組みは世界的にも注目されている。一時期、ノーベル平和賞の候補にノミネートされたこともあったが、八十年代に反政府ゲリラが無差別テロを行い、約一万四千人もの一般市民が犠牲となった、悲しい過去を背負う土地でもある。

そんな街に暮らすメリーナは、地域の少年少女劇団「アレーナ・イ・エステラス」の女優だった。劇団は、テロによる混乱が収束した後、傷つき、貧困にあえぐ子供たちを元気づけようと、当時十六歳だった一人の少女が始めた。現在、その活動はペルー国内にとどまらず、海外でも公演やワークショップを開くなど幅広い。舞台では、サーカスを思わせるフィジカルなパフォーマンスで観客を魅了する一方、街の歴史を伝える公演も行っているという。

旅の途中、メリーナと私は同じ役者という立場から、通訳の方と共に何度か話をする機会があった。「いつもどんなことをしているの？」という私の問いに、メリーナは、「劇団に入った人が必ず覚え

の日本のように言論や思想が統制されたりということはないかもしれない。しかし、一度戦争が起これば、苦しむのはいつだって弱い立場の人々だということは決して忘れてはいけない。

一人の「表現者」として、自分で考え、歴史に学び、平和を未来に紡ぐために生きていきたい。メリーナの澄んだ瞳の中に、私は、私これから歩むべき道を見た。



ポートレート

はまだ あゆみ

一九八五年、いの町生まれ
ふたりっこプロデュース代表。
二〇一四年夏、高知にUターンし、ひとり芝居の全国ツアーや、Washi + Performing Arts Project など、高知を拠点に舞台の企画や公演を行っている。



メリーナ 写真提供:ピースポート

ウツボによる地域活性化への取り組み

采澤 洋弥

須崎市は現在人口二万四千人を割り、小規模事業者の数も年々減り続けており、市内商店街においてはシャッター街になっていきます。統計によると二十年後には二万人を切ると予測されており、昨年発表された消滅可能性自治体の一つになっています。

そのような将来の町の状況を危惧する三十代〜四十代の若い事業主が中心となり、平成二十五年四月より須崎うつぼ学会を立ち上げ、ウツボのPR活動を実施してきました。

高知県内では有名な鰹やちりめんじゃこ、きびなご等を町おこしの起爆剤として取り組んでいる市町村は多いのですが、ウツボで町おこしに取り組んでいる市町村は

県内だけでなく他県にも事例はほとんどありませんでした。

ウツボとはどういった生き物かというところ、日本近海ではどこでも生息しており漁師やつりびとの仕掛けを台無しにするなど凶暴な魚です。

その凶暴性や鋭い歯を持っていることから「海のギャング」と言われ、鋭い歯でカニやエビなどなんでも食します。

このように見た目が怖く、グロテスクなウツボですが、味は淡泊で美味なのです。このギャップに面白さがあるとの意見が会員から多くあり、町おこしの地域資源としてウツボを選択しました。当会のキャッチフレーズも「美味さの

秘訣はギャップやき！」に決定し、ポロシャツやチラシにこのフレーズを使うことになりました。



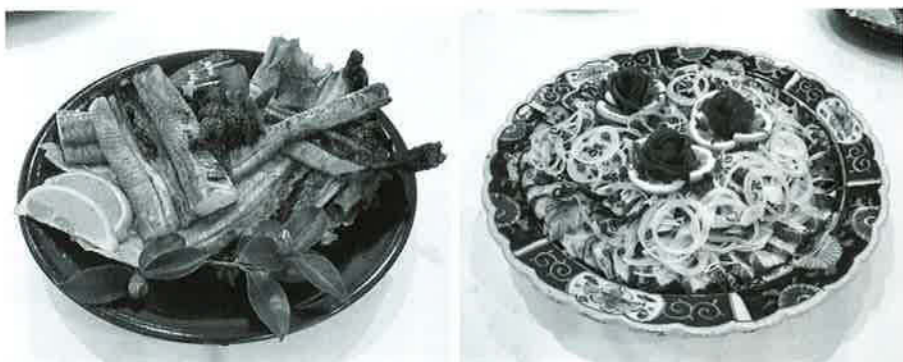
うつぼ学会メンバー

食べ方は刺身、タタキ、唐揚げ等調理方法はいろんな種類があります。しかし、ウツボには小骨がすごく多いうえに、大きい骨から小さい骨が複雑に入り組んでいてそれらを取り除くのは大変難しく、特殊な技術が必要とされています。職人のかたは一本さばくの十分ぐらいでさばけるのですが、そうなるまでに二年間ぐらいの時間を要しており、初めてさばくときには一本二時間かかるとも言われています。ちなみにウツボはぬめりがすごくて扱いづらいため、洗濯機でぬめりをおとしたりする職人も須崎にはいらっしやいます。

また、手間暇かけてさばくだけあってウツボの皮と身の間のゼラチン質には多くのコラーゲンが含まれており美容食材とも言われています。

美容だけではなく、ウツボはとても栄養価が高く、良質のたんぱく質、各種ビタミンや鉄分、カルシウムなども豊富で滋養強壮や関節痛などにも良いと言われています。須崎市内の年配の方に話を伺うと、昔は産後の女性にウツボを食べさせるとお乳の出が良くなったという逸話もよく聞きます。ウツボをよく食べる和歌山県でも同様

の話の聞ききました。味わいは見た目の凶暴さとは異なり、肉厚でやわらかく、身はプリプリとっていてあっさりとした食感でもとても美味しい食材です。旬の時期は十月末〜三月と言われています。



うつぼのたたき

うつぼの蒲焼き

文献は残っていませんが、戦後、須崎市ではウツボを食べるようになったようです。食べる習慣が広まったきっかけは物々交換からじまったと言われています。

須崎市池の浦の漁師たちがクエ漁をしているときに網にかかっていたのがウツボで、クエと言えは高級魚であり網にかかりにくく、かかっていたら喜ばれる魚なのですが、全然獲れずに、雑魚のウツボばかりが網にかかる日もあったそうです。

そのため、市場で売れないウツボを持って、農業で潤っていた土佐市戸波へ向かいお米などと物々交換してもらおうと戸波の方々に見せたところ、今までウツボを見たこともなかった戸波の方々は見た目のグロテスクさゆえに拒絶を

していたそうです。そこで、須崎市ではウツボを棒状のものにぐるぐるに巻きつけて、たき火などで焼いてから食べる風習があるので、その方法を教える



第二回うつぼ祭り

にウツボの食し方などが広まり、瞬く間にウツボ料理が流行し、当初雑魚扱いだったウツボの価値が跳ね上がり、今では高級魚として扱われるようになったと言われています。

ですが、日本各地でウツボはほとんど雑魚扱いで、ウツボを食している地域は四国近辺と和歌山県の一部と長崎県、宮崎県と言われています。

須崎うつぼ学会結成から二年間、平成二十五年十一月には第一回須

今年は全国に展開できる商品を作り出すべく文献や成分の調査、仕入先との連携などの活動を行っていき予定です。今後、須崎には「鍋焼きラーメン」だけでなく、美味しいウツボが食べられる町として認知していただけるよう、メンバー一丸となって頑張っていきたいと思えます。そして、これらの活動を通じ、少しでも地域の発展に貢献していきたいと考えております。

よねざわ ひろみ

須崎うつぼ学会 広報部長。

〒七八五-〇〇二二

高知県須崎市西札町四十八

須崎商工会議所内 須崎うつぼ

学会事務局

TEL: 〇八八九四二二五七五

FAX: 〇八八九四三二六九六

撮影する生物からみえるもの

中西 安男

野生動物を専門に、野鳥や哺乳類に魚類と幅広く撮影しています。その中から二種の生物を取り上げたいと思います。ひとつは、一九九〇年から追い続けているニホンカモシカ、それに三年前から取り組んでいるトビハゼという魚です。

ニホンカモシカ

ニホンカモシカ（以後カモシカとする）はウシ科の動物で本州、四国、九州に生息し、太古から日本列島に生息している生きた化石と呼ばれる世界的にも貴重な野生動物です。一九六四年に特別天然記念物に指定されていますが、指

定された当時は狩猟圧によって絶滅が危惧されるほど生息数は減少していたために、幻の動物と呼ばれていました。

その後、保護される存在となったことと同時に、奥地の天然林を伐採しての拡大造林計画が各地で進められました。こうした伐採地には若い灌木や草類が繁茂し、その豊かな植物をエサとすることでカモシカは生息数を劇的に回復させてきたのです。

四国のカモシカは、徳島県と高知県に少数が生き残る状況でしたが、生息数は順調に回復していたことから、もはや絶滅の危機となることがないだろうと推測されていました。しかし近年、生息数は再び減少傾向にあり、場合によつ

ては最悪の事態も想定される状況が発生しています。

要因は、ニホンジカ（以後シカとする）の増加です。奥山の造林によりエサ条件が豊かになったことと、狩猟者人口の減少などが拍車をかけ、県下で爆発的増加がみられています。シカは群れで行動し、食欲で幅の広い食性をもちます。そのために、農作物や植林への被害が多発する一方で、森林内の自然の下層植生へのダメージも大きくクローズアップされてきました。林床帯に密生していたササですら消滅してしまうほどで、山の環境破壊は驚異的です。

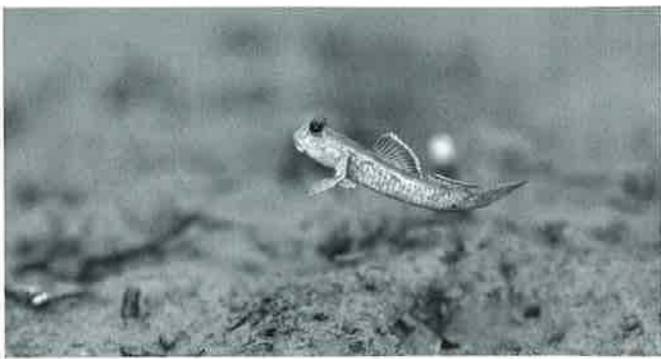
このため、カモシカとシカの分布が重なっている地域では、カモシカの生息数が減少しています。

カモシカはシカと異なり各個体がなわばりを持ち、単独生活をします。なわばりには強く固執するため、なわばり内の林床植物が消滅しても移動することはなく、エサ不足から繁殖率が低下したり、餓死していくという事態になります。こうした要因により、主要な生息地であった奥山で生息数が急激に低下してしまっています。

トビハゼ

トビハゼは全長十センチ前後の小さなハゼ科の魚類で、干潟などの地上をビヨンビヨンと跳ねて移動する特殊に進化した魚です。

その生態はとても興味深く、特に産卵期のオスたちの行動は魚とは思えないほどユニークなものです。オスはメスの気を引くために盛んに高くジャンプし、メスが近寄ってくると尾をくねらせてダンスをします。そして、求愛の締めくくりにメスの頬にキスをするので、そんなユニークな生態に魅せられ、撮影をつづけているのです。広く日本に生息していますが、東京以南から沖縄の太平洋側が主



トビハゼの求愛ジャンプ

な分布域となっています。高知県は干潟が少ない地域ですが、環境の悪化や干潟の減少で、生息数は減少しているのが現状です。小さな干潟でも条件が合えば、繁殖が可能なのですが、防災のための護岸工事などにより、生息に適した干潟は減少の一途をたどっています。トビハゼは、適応能力が低い生物であるため、将来は高知県から消滅してしまう心配があります。トビハゼの生活を撮影しているのは市内の小さな干潟なのですが、小さな干潟であることが生態系の成り立ちをダイレクトに教えてくれます。トビハゼは雑食性で小さな生物からチゴガニや魚の稚魚まで襲って食べています。干潟にそ

うした生物が生息してないと、トビハゼも生息できないのです。トビハゼも野鳥（サギ類）に食べられることが多く、食う食われるという生態系の成り立ちが、小さな干潟で体感できるのです。

大きな課題

小さな島国である日本には、各



著書『やっさんのわくわく動物記』

なかにし やすお

一九五六年 ブラジル生まれ
約四歳で帰国し高知県で育つ。
二〇〇九年三月までわんぱーくこうちアニマルランドに勤務（飼育担当係長・学芸員）。
二〇〇九年四月、野生動物専門のフォトグラファーとして活動を開始。

新聞等の連載

朝日新聞社：「やっさんの動物記」一九九六年四月～一九九七年九月。高知新聞社：「TOSAフォトギャラリー」二〇〇七年四月～二〇〇九年三月。高知新聞社：「野生からの便り」二〇〇九年十一月～二〇一三年三月。

著書

①『カモシカに会った日』高知新聞社、一九九五年九月四日。②『やっさんのわくわく動物記』高知市文化振興事業団、一九九八年十一月二十日。

時代の転換期にある現在

福田 善乙

現在の日本の国民総所得（GN I）は約五百兆円で世界第三位にあるが、同時に毎年自殺者が三万人近くおり、閉塞感漂う状態にある。

これは新しい時代への転換が求められていることを示している。それでは、どこからどこへ転換するのか。それは従来型の価値観・思考・生き方から、新しい価値観・思考・生き方への転換である。それでは、新しい価値観・生き方とはどんな内容なのだろうか。

会全体で見た効率性が大切になっているのである。

第三に、これまでのグローバル段階での生存競争中心の経済社会システム・生き方から、人間の相互発達の競争Ⅱ「協創」・「共創」中心の経済社会システム・生き方への転換である。

「競争」には二つの「競争」がある。一つは勝ち負けを決める生き残りかけた「競争」であり、もう一つはお互いに良いところを学びあい、切磋琢磨して、お互いに人間として豊かになっていく「競争」である。

これまでは生き残りをかけた生存競争が中心であったため、勝ち負けが中心になり、お互いに協力し合うということが難しかったのである。そこでは勝ち組と負け組、成功者と敗北者という関係が生まれ、差別や格差の温床となり、良い人間関係を作ることが困難であった。

これからは、お互いがお互いの優れた点を学びあい、お互いが人

第一に、これまでの大量生産・大量販売・大量消費・大量廃棄型の経済社会システム・生き方から、自然・環境保全型で身の丈に合った経済社会システム・生き方への転換である。

これまでは、グローバル時代の価格競争に打ち勝つために量的拡大が至上命題となっていたのである。

この大量生産方式は私たちに物質的豊かさや利便性を与えた。しかし、同時に大量の原材料やエネルギーを消費するために、自然や

間として発達しようとする関係性、お互いに協力しあって新しいものを創造する時代になるのである。

第四に、画一性中心の経済社会システム・生き方から、多様性中心の経済社会システム・生き方への転換である。

大量生産方式は人間や物事を画一化・単純化して生存競争に打ち勝とうとするのであり、画一化こそが最大の美学になっている。

しかし、人間は多様な能力を持つ多面的な存在であり、画一化や一面化は、人間性を破壊する。その頂点が現在であり、生き辛い世の中になっている。

それゆえ、これからは多様性や多面性を大切にしながら進む必要がある。

第五に、これまでの人間や物事の評価を単一の基準・物差しで決める経済社会システム・生き方から、複数の基準・物差しで決める経済社会システム・生き方への転換である。

環境を大規模に破壊することになったし、大量の廃棄物を生み出し、ゴミ問題を深刻化させている。

私たちの地球は異常気象・自然災害・温暖化・森林の破壊と砂漠化などで悲鳴をあげている。そして、私たちの暮らしもまた、浪費と使い捨ての文明に毒されてきている。

この問題を解決する方向性として、私たちは地に足をつけ、自然や環境を大切に、身の丈に合った営みが求められているのである。これこそが未来を切り開く

これまでは、グローバルな時代ということ、世界を単一の基準で評価することが重視された。

特に現在はグローバル・スタンダード（地球的規模としての基準）、実質的にはアメリカン・スタンダード（アメリカの基準）が人間や物事を決める基準となっている。

しかし、世界には百九十七カ国があり、それぞれが違う言葉・習慣・宗教・暮らしをしており、それぞれ価値観や生き方が異なる。それを一つの基準で評価することが無理なことであり、特に危険なのは、その基準に合わないものは排除されることになりかねないということである。

特に、国際間の問題については、それぞれの国や地域にあった基準・物差しによる評価を大切にしたい、各国間の話し合いで決めていくことが求められる。

また、日本の政府や経済界はこの単一の基準・価値観（アメリカの基準・価値観）を日本国内の基準・価値観にしようとしているが、それは無理なことである。それは

方向性だといえる。国連がこれからの農業のあり方として、二〇一四年を「国際家族農業年」と定めたのも、先見性があると言えよう。

第二に、これまでの経済的効率中心主義の経済社会システム・生き方から、人間的・社会的効率中心の経済社会システム・生き方への転換である。

これまでの経済的効率はコスト削減・無駄の排除ということ至上命題にして実行してきた。そこでは肝心の実行する人間そのものが軽視されてきたのである。いわば人間を人間として見ずに、人間のロボット化が促進された結果、現在の閉塞感が漂うことになったのである。

それゆえ、これからは人間を人間として大切に、人間の持つ能力や個性を生かす効率性を中心にすることが肝要であり、そのことが逆に経済的効率を高めることになる。

また、効率性を狭い企業内だけで捉えるのではなく、長期的に社日本や日本人が独自の伝統や文化を持つているからである。

これからは一つの基準・物差しで人間や物事の評価や決定をするのではなく、それぞれの場にあった複数の基準・物差しで評価や決定することが重要となる。

以上、五点に亘って、従来型価値観・生き方から新しい価値観・生き方への転換の必要性について述べてきたが、それを実行するのは私たちである。

その意味で、この実行する私たちの「本気度」が今問われているのである。

ふくだ よしお

一九四二年 高知市生まれ
高知短期大学名誉教授、(株)四
銀地域経済研究所客員研究員。

向原先生を偲んで

今年七月三十一日にお亡くなりになった故・向原寛先生は、音楽教育者、声楽家であり、高知大学教授、高知コンサートグループ会長、高知県合唱連盟顧問、全日本合唱連盟理事、四国二期会顧問、高知下八川賞実行委員などを務められ、高知の音楽文化に多大な貢献をされました。その功績に対し二〇〇三年には高知県文化環境功労賞を受賞されています。

向原寛先生の急逝を惜しむ

向原先生をお見送りしてまだ日も浅い今、私にとってはまだ現実

のことと受け入れ難い思いです。あの、少しはにかみを含んだ笑顔で、*やあ!*と手を上げて歩んで来られる姿が目に見えるようです。

四月四日に脳梗塞で倒れた後、七月三十一日に亡くなられるまで、リハビリにも努めてこられたようですが、もともと心臓に問題を抱えていらつしやうたことが先生の死を早めてしまったようです。私が最後にお見舞い上がったのが七月二十三日。この日はさすがに分厚かった胸にも頬にも陰りが見えて、私を認識されて話したそうに唇を動かされましたが、会話はなりません。病室を辞すとき、いつもの力強い右手の握手も、心なしか萎えたように感じました。「また来るね。」と言うと、軽くうなずかれた顔が忘れられません。

先生は日頃からじつにために、

向原寛先生と私

向原先生は私の師であり、また私のレッスン生でもありました。私は社会人になってから音楽を教えるを乞うためレッスンに通いました。

またレッスンに通わなくなつてからも、高知コンサートグループ、四国二期会などに所属させていた

だいて、先生からは今日に至るまで多くのご指導をいただきました。そんな先生から自分を教えて欲しいと私にお話がありました。三年前の五月のことです。

私は当然のこと大変驚きましたし、正直冗談でおっしゃっているのだと思いました。

ところが先生は真剣に「僕は二〇一四年に予定されている高知コンサートグループ五十周年記念演奏会で歌いたい、でもみじめな演奏だけはしたくない。君の事は随分前から知っているが、イタリア留学してからめざましく変貌した。だから君に習いたい。まだ僕でもしつかりと歌えるようになるだろうか？」とおっしゃられたの

たくさんさんのコンサートに出掛けておられました。ことに合唱連盟加盟団体のコンサートや、高知コンサートグループの定期演奏会をはじめとする各種のコンサートや、高知県新人演奏会などにはほとんど足を運んで、「ブラヴォー！」を発したり、終演後の打ち上げにも参加されて、講評や激励の言葉を述べられたり、率直で、誰にもわけ隔てのない接し方をされました。

最後にご一緒したコンサートが三月七日の「よんでんアンサンブルコンサート」でした。

先生が倒れる直前の三月三十一日の「アンサンブル・ソノリテイ室内楽コンサート」にも出掛けるべく、楽しみにしておられたのですが、当日になって、どうも心臓の調子がいまひとつなので、チェリストの山根風仁さんへの伝言を託されたのでした。先生には仲間や教え子たちがどれほど励まされたかしれません。

昨年五月の高知コンサートグループ創立五十周年記念コンサートにも、創立メンバーの一人として独唱すべく、三月頃まで熱心に取り組まれていたのですが、主治

です。

私は先生のこの言葉に胸打たれ、そして齢八十過ぎてでもなおかつ持ち続けられている歌に対する謙虚で真摯な姿勢と向上心、そしてその情熱に心から畏敬の念と例えよりのない感動を受けたのでした。どうしてこの申し出と熱い想いを私が断ることが出来るでしょうか。それから週一回のペースで、真剣で妥協のない二人のレッスンが始まりました。

先生は本当に真面目なレッスン生でした。私が細かく注意することを一所懸命聞いて、直そうと努力してくださいました。そして先生は間違いなく変貌していきまし

た。レッスン開始から一年半が経過した二〇一三年十二月に高知コンサートグループ「冬のミニコンサート」にサブライズ出演することになりました。曲目は越谷達之助「初恋」とトスティ「セレナータ」の二曲です。確かに少しの注意点はありましたが、しつかりした見事な演奏でした。演奏が終わると同時にたくさんさんの「ブラヴォー！」の声がかかりました。この「ブラヴォー！」は先生の演

医の指示によって心ならずも出演を断念されました。教え子にも教えを乞う先生の熱意と真摯な姿には、強く心を打たれました。半世紀前にその設立を主導された先生が、演奏は叶わぬまでもスポットライトを浴びて、記念コンサートの開幕セレモニーに臨まれたこと、せめてもの慰めであったことと思います。

さて、先生が高知へ来られるまでのことについて、少しふれておきたいと思います。

教員志望で進まれた香川大学を中退し、声楽家を目指して東京芸大へと大きな転進を図られた先生は、岩城宏之、山本直純、五十嵐喜芳ら戦後の音楽界をリードする同窓らと親交を結ばれ、卒業後、プロ合唱団、東京混声合唱団の創設に参加された後、その溢れる情熱をもって一九六二年高知大学へ着任されました。以降半世紀、先生は、そのバイタリテイ溢れるリーダーシップでもって、高知県の音楽教育界はもとより、合唱をはじめとするさまざまな分野で貢献をされたことは周知のとおりです。

さらに敢えて特筆すべきは、先

奏、そして日頃の先生へのみんなの感謝の気持ちがこもった「ブラヴォー！」なんだと私は思いました。私は先生に少しばかり恩返しが出来たという気持ちと、五月の記念演奏会へ向けての確かな手応えをこの時感じたのでした。

しかしこれが先生の最後の演奏となったのです。年明けてから先生の体調が悪化、歌うことへのドクターストップがかかり、レッスンも一月を最後に中止となりました。

結局体調は回復されずに高知コンサートグループ五十周年記念演奏会での出演はかきませんでしたが。ただそれからご自身体調が優れないにもかかわらず演奏会はたくさん聴きにいかれ、心援の「ブラヴォー！」をかけられていました。

先生は最後まで音楽を愛し、また演奏者に温かい声援を送られたのでした。今は別世界に旅立たれた先生に、心から感謝の気持ちを捧げ、ご冥福をお祈りしたいと思います。

テノール歌手 T o s h i



高知コンサートグループ名誉会員、高知県合唱連盟顧問 柳井 卓

「エホン・デ・アンボン！ー西村繁男の絵本原画展」

高知市出身の絵本作家西村繁男さんの絵本原画展を、高知こどもの図書館とかるぼーとの二会場で開催しました。

こどもの図書館は九月四日（金）から十四日（月）の間、西村さんの最新刊「おぼけもこわがるおぼけ」の原画と絵本を、かるぼーとでは九月八日（火）から十三日（日）の期間中、『ピクブルピクブル』の原画や立体作品、絵本、さらに地元作家の三本桂子さん・井上聡子さんの原画・絵本を展示しました。

また、西村さんを講師に、会期末の十二日（土）・十三日（日）に開催した絵本のスライド投影や「ばけますよ絵本づくり」も非常に人気で、参加者は、西村さんから絵本の説明を聞いたり、制作の技法や意図など日ごろ疑問に思っていることを尋ねたり、絵本にサインをもらったりと、



（入場者数 九百七十七名
こどもの図書館五百三十二名・かるぼーと四百四十五名）

第177回市民映画会

二〇一五年九月十七日（木）、十八日（金）に、高知市文化プラザかるぼーと大ホールにて、「第177回市民映画会」を開催しました。

市民映画会は昭和二十六年の高知市立中央公民館の発足と同時に始まり、高知で未公開の文化の薫り高い映画を低廉な料金で提供する事を目的に、これまでに三百五十二本の映画を上映している全国でも珍しい二本立ての映画会です。

今回の市民映画会では、ALS（筋萎縮性側索硬化症）のハンデを負いながら研究を続け、現代宇宙論に多大な影響を与えた「車椅子の天才物理学者」ステイーヴン・ホーキング博士と、その妻ジェーン。歳月を重ねるごとに増す試験に強固な愛の力で立ち向かっていく「博士と彼女のセオリー」と、一九七七年、文

化大革命が終結し二十年ぶりに解放された陸焉識が、心労のあまり夫の記憶だけを失った妻の馮婉玉の記憶を取り戻そうと奮闘する「妻への家路」の二作品を上映しました。

（入場者数 七百七名）

高知市文化振興事業団

9月～10月の事業から

5つの卵のはなし

（平成二十七年十月十一日・かるぼーと小ホール）

イタリアからやってきたその人は、大柄ながらも紳士的で、時々冗談も言いながら、日本人を良く観察し、特徴をつかむのが上手だった。演劇・音楽・絵本・多才な持ち主は、今回の舞台美術さえも自作した。その人物の名は、ダリオ・モレッティ。イタリアの児童劇団「テアトロ・インプロヴィゾ」の主宰で、演出家として高知にやって来た。

連れ立ってやってきたのは、並河咲耶。妻であり、通訳であり、アシスタントを務めている。彼女が間に入ることで、演出家ダリオのダメだしは、役者に分かりやすく、そしてまろやかに伝わっていく。

え、ある種人気者のゆるキャラのような存在感を魅せる。そんな二人に「せいっぱい遊べ」と、ダリオは言う。その人の持つ可能性を信じ、引き出すのが上手だった。伸びのびと演技や稽古をしてほしい。そんな思いで、我々高知市文化振興事業団の職員がサポートに加わって、一から演劇作品を創作した。制作・稽古期間は十日と短く、予算も少ない、そして伸びない集客、集積する多くの問題は、私達を悩ませた。しかし、本事業には多くの人に関わってくれた。この場で、皆様の名前を挙げるには誌面が足りない。本当に感謝している。その人達から多くのエネルギーをいただき、本作品は大きな卵となった。ただ良いモノを見せたくて、役者の想いは伝わると信じた。迎えた当日、開場前の行列、急遽の増席、満席の中の笑い声、舞台は成功とあって良い熱気を帯びていた。

幕が降りて、一夜が開けた。ある者は、「ドラマトウルク」と評され、演出家でも脚本家でも役者でもない、それでいて制作とは独立したポジションで舞台芸術を深化させることが重要な役割を占めるということを学んだ。またある者は、この数日間を人生の宝だったと思い、役者としての自信を深めた。そしてある者は、本作品は自分の血となり肉となつて、今後の活動に大きな影響を与えていくと発した。

ゴールではなく、ここを起点に学びを生かす。それぞれが、新たなステージで。本公演が残した最たるものは、この事業に関わった人々の成長と言えるかもしれない。

高知市文化振興事業団 出版物のご案内



珍聞土佐物語 一五十人の語り部たち(上巻・下巻) 依光 裕 編著

土佐の山や海辺の村の囲炉裏端で古老が語った地元の伝説や小咄の数々。上巻では地域別に二十名の語り部の百三十話を、下巻では三十一名から寄せられた百二十話を採録。親から子へ、孫へ語り継ぎたい「ふるさと」がここにある。(平成五年刊)

価格各 1,677円 (本体価格 1,553円+消費税)

一郷愁に泣き笑い。おおの、おんちゃん! たまらんちや!

読み物から研究書まで。地域の芸術・文化に関わりの深い書籍たち 高知市文化振興事業団出版物 詳しくはホームページまたは088-883-5071へ

泣いても
騒いでも
OK!

子育て応援 ZEROSAI

子育て応援ZEROSAIの人気のイベントがひとつになったスペシャル版。
歌って、踊って、盛りだくさんなクリスマスをお届けします。
かるぽーとだけのスペシャルステージをご家族でお楽しみ下さい。

0歳からの音楽コンサート かるぽーとスペシャル



【1部】 0歳からの音楽コンサート 【2部】 音楽劇ももたろう

2015年 12月23日 (水・祝) 14時開演 (13時30分開場)

高知市文化プラザかるぽーと大ホール (高知市九反田2-1)

入場料：全席自由 一般 500円 高校生以下 300円 3歳未満無料

- チケット販売
- 高知市文化プラザミュージアムショップ 088-883-5052
 - 高知プレイガイド 088-825-4335
 - 高知大丸プレイガイド 088-825-2191
 - 高知県立県民文化ホール 088-824-5321
 - 高知県立美術館ミュージアムショップ 088-866-8118
 - ローソンチケット (Lコード 63645)

詳しくは…

0歳からの音楽コンサート 検索



協力：子育て応援 ZEROSAI
後援：高知新聞社・RKC高知放送・NHK高知放送局・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ

主催・お問い合わせ：公益財団法人高知市文化振興事業団 088-883-5071